

法蔵 344号 3月号

・順信寺の予定

- 3月12日午後0時より 「定例法話会」 布教使さんは、遠軽町生田原 法願寺の埴山和成師です。御一緒に仏さまのお話を聞かさせていただきます。お参りをし、美味しいカレーライスを食べ、お話を聞かせていただきます。2時30分に終了する予定です。
- 3月13日午後1時より 「おみがきもの」 順信寺の仏具を磨きます。御協力よろしくお願いたします。
- 3月21日午後1時より 「春彼岸会法要」 今年は21日にお参りをさせていただきます。御理解御協力よろしくお願申し上げます。
- 3月28日午後1時より 「親鸞聖人ご命日のお参り」
- 4月12日午後0時より 「定例法話会」 お話していただく布教使さんは、旭川市泰巖寺の川原興文師です。あの名調子!!を是非聞きに来てください。一月の布教使さんのお父さんです。
- 4月28日午後1時より 「親鸞聖人ご命日のお参り」

「このような事態に人は何を為すべきか。まずはあらゆる職種の人が、自分の職業に責任を持ち、行動するしかないと思います。」(藤原猶真)

～このコロナ禍の中で、まず自分の仕事に誠実であることが大切なことなのですね。そして、ハイタッチやハグ等が出来ない、人同士が近くに寄れない状況の中で、誠実な人間関係が今求められているのではないかと思います。

「いつも誰かの お世話になっている
いつも誰かに ご迷惑をかけている
そうでないと 思っている奴(やつ)を
うぬぼれ根性(こんじょう)の迷惑者(めいわくもの)と云う」

(厚岸町 正行寺掲示板より)

～誠実に生きるということは、まず自分自身に対する深い自覚、目覚めが必要ではないでしょうか。

「初心忘れるべからず」という言葉があります、これは能の世阿弥の言葉で、一般的には「最初のころの志を忘れてはならない」という意味でつかわれますが、世阿弥が言っていたことは「自分の未熟さを忘れるな」ということだそうです。分かった気になり、自分は大丈夫とってしまうと、もう芸の進歩はないということだと思います。未熟者の自分を忘れてはならないということのようです。思い上がってしまう人間にとって、大事なことだと思います。人間は未完成な不完全な「凡夫」^{ほんぶ}なのであります。

「星とたんぽぽ」

青いお空の底ふかく 海の小石のそのように
夜がくるまで沈んでる 昼のお星は眼にみえぬ
見えぬけれどもあるんだよ
見えぬものでもあるんだよ
散ってすがれたたんぽぽの 瓦のすきにだアまって
春のくるまでかくれてる つよいその根は眼にまえぬ
見えぬけれどもあるんだよ
見えぬものでもあるんだよ (金子みすず)

～昼の星やタンポポの穂のようにみえないけれどもあるものもありますが、放射能やコロナウイルスのようにやっかいなものもまた見えないけれどもあるのです。人間の目で見えるものだけが全てではないということになります。人間の目で見えないけれどもあるということです。生き物としての謙虚さがもとめられているのかもしれない。

「物事に取りかかるべき一番はやい時は、あなたが「遅かった」と感じた瞬間である。」という言葉が紹介されていました。これはあるアメリカの大学の図書館に「勉強の教訓」として掲げてあった言葉だそうです。「気が付いたところがいつもスタート」ということでしょうか。そうだなと思いました。

・忠峰コーナー

「遅遅として 進まぬ春の 雪の嵩^{かさ}」

「三月は 荒れても雪は 融けて行く」